

日体大の伝統行事に神奈川地本本部長らが招待



令和5年11月15日（水）、日本体育大学の伝統行事である「体育研究発表実演会」が横浜アリーナ（神奈川県横浜市）で開催された。神奈川地方協力本部（本部長 平井一海佐）は、令和3年に日本体育大学と包括連携協定を締結しており、毎年、本部長と市ヶ尾募集案内所長が「体育研究発表実演会」に招待されているが、今年は、日頃から職業講話や基地見学会で学生たちと交流がある広報官なども初めて招待され、当日は、本部長と市ヶ尾募集案内所長のほか、同案内所の広報官ら6名も観覧した。

また、今回の「体育研究発表実演会」では、大学からの要望を受け、オープニングに陸上自衛隊高等工科学校の「和太鼓部桜花太鼓」が登場して華を添えた。

観客たちは、生徒たちの一糸乱れぬ全身全霊の演奏に、「迫力があるなあ、高校生とは思えない」と驚いた様子で、演奏終了後には、割れんばかりの拍手が鳴り響き、大学関係者からも「来ていただいて良かったです。素晴らしいバトンを学生たちにつないでください」と、うれしい言葉をいただいた。

市ヶ尾募集案内所は、「大学生たちのエネルギーやパワーを実感できる有意義な時間だった。今後も大学と連携を図りながら、学生たちに自衛隊の魅力発信し、志願者の獲得につなげていきたい」としている。



相模原地域募集相談員会の座間駐屯地研修を支援



自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 新妻一陸尉）は、令和5年12月2日（土）、第4施設群の協力を得て、相模原地域自衛官募集相談員会の座間駐屯地（在日米陸軍キャンプ座間）での部隊研修を支援した。

新型コロナウイルスのため4年ぶりの開催となった部隊研修は、募集相談員の半数近くが入れ替わったこともあり、日頃から地域事務所の募集広報活動に積極的に協力いただいている募集相談員に部隊の現状を理解してもらうために実施されたもので、当日は、キャンプ座間で「陸軍士官学校跡地の見学」を行い、座間駐屯地司令（第4施設群長）による「自衛隊の現状について」と題した講話を聞いた後、懇親会を実施した。

参加者からは、「普段見ることができない皇族舎跡地や天皇陛下のための防空壕等を見学し、当時の苦勞をしのぶことができました。次回も参加したい」という声や、講話に対する「自衛隊の現状について非常に勉強になり、自衛隊に対する理解を深めることができました」などの感想が寄せられ、会長も「4年ぶりの部隊研修となりましたが、自衛隊に対する理解を深め、平和を守る隊員の頼もしさを感じることができました。防衛基盤である隊員の確保に今後も協力したいと思います」と話していた。

相模原地域事務所は、「今後も募集相談員との連携を図り、国防の重要性や自衛隊の活動を積極的にアピールしていきたい」としている。



川崎地区家族会 百里基地見学



自衛隊神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 宮城英明2陸尉）は、令和5年12月6日（水）、神奈川県自衛隊家族会川崎地区会が実施した航空自衛隊百里基地（茨城県小美玉市）での基地見学を支援した。

基地見学は、先着23名の募集定員がすぐに埋まるほどの人気で、ご子息が航空自衛官だという参加者は、空自の基地見学をとっても楽しみにされていた。

百里基地に到着後、隊員食堂で体験喫食を行い、昼食の鶏肉のチリコンカンを食べた参加者は、「栄養も考えられていて、すごくおいしい」と驚いていた。

また、続いて川崎市出身隊員に対する激励を実施し、川崎地区会の松村信子会長から「これからも頑張ってください」と記念品を贈られた隊員は、「ありがとうございます」と喜んでいました。

その後、百里基地の概要説明を聞き、続いて行った施設見学では、タイミング良く小松基地から飛来しているアグレッサー（飛行教導群）のF-15戦闘機が離陸するところを滑走路近くで見ることができ、記憶に残る基地研修となった。

川崎出張所は、「家族会の皆さまに、自衛官が立派に活躍している姿を見て安心していただき、更なる自衛官募集広報と志願者の獲得につなげていきたい」としている。

